

つたえる地域 つながる地域

実習控え決意新た

八学大看護学科で宣誓式



看護の道を進む決意を新たに「宣誓の詞」を
斉唱する看護学科の2年生

八戸

八戸学院大(水野眞佐夫学長)健康医療学部看護学科の宣誓式が11日、同大大会館で行われた。基礎看護教育を終え、さらに専門性の高い知識と技術の習得を目指す2年生72人の宣誓者が、看護の道を歩む決意を新たにした。

同学科は、2016年に八戸学院短期大(現八戸学院大短期大学部)から移設して4年制の看護学科として開設。式典は本格的な実習が始まるのを前に、改めて看護に携わる責任を再認識してもらおうと、毎年5月12日の看護の日に合わせて実施している。宣誓者はそれぞれのろうそくに明かりをともし、全

員で「宣誓の詞」を斉唱。水野学長が「医療発展のため探究心や研究心を体得し、ともした明かりのように、明るく温かく患者に寄り添えるようになってほしい」と式辞を述べた。

3年の金澤彩佳さん(26)が「仲間や患者さん、施設関係者、先生、家族への感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献できるように共に成長していきましょう」とエール。宣誓者代表の昆佑香さん(20)が「『愛』という大きなテーマの下、理想の看護師像を追い求め、より一層努力していく」と誓った。

式典後、看護師で随筆家の宮子あずささんが記念講演を行った。

(三浦千尋)